

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和2年9月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:102)
2. 調査実施時期 令和2年9月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:96社 / 回答率:94.1%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
R1.12	-2	-12	-23	-	-	-
R2.3	-	16	15	0	-	-
R2.6	-	-	31	32	13	-
R2.9	-	-	-	29	11	8

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-5	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
当年	152,805	193,380	204,381	-	-	-
(前年)	146,052	178,606	183,950	177,410	152,805	193,380
対前年比	105%	108%	111%	-	-	-

(概況)
トド原木在庫は前年を上回り、不足感はほぼ解消されている。秋以降も引き続き前年を上回ると回答した企業が多い。

(回答企業の主なコメント)
在庫十分/必要以上に在庫を持たなくなった/合板用低調/製材動き悪く在庫過剰気味/自社造材班で伐採量調整/土曜等の受入制限中/国有林の動向注視/価格一部値下げ/入札不落で出材控える動き有

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
R1.12	-45	-53	-43	-	-	-
R2.3	-	-74	-75	-60	-	-
R2.6	-	-	-78	-89	-78	-
R2.9	-	-	-	-82	-84	-74

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-5	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
当年	221,166	181,768	122,212	-	-	-
(前年)	224,597	197,058	134,438	212,330	221,166	181,768
対前年比	98%	92%	91%	-	-	-

(概況)
トド原木消費量は低調に推移している。トド製品荷動きは秋以降も前年を下回ると回答した企業が多数を占めている。

(回答企業の主なコメント)
新型コロナで先行不透明/安定した出荷が困難/経済見通し立たず/外材価格・輸入量に影響受ける/建築材・梱包材・ラミで受注半減/DIYやや増加/住宅向けはハウスメーカー・商社が買いを止めている

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
R1.12	-33	-33	-43	-	-	-
R2.3	-	-11	-30	-29	-	-
R2.6	-	-	17	26	15	-
R2.9	-	-	-	18	9	-2

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-5	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
当年	218,917	254,678	277,827	-	-	-
(前年)	166,827	224,394	233,488	237,959	218,917	254,678
対前年比	131%	113%	119%	-	-	-

(概況)
カラ原木在庫は前年を上回っている。引き続き製品受注が少ない影響で、前年を上回ると回答した企業が若干多くなっている。

(回答企業の主なコメント)
皆伐や搬出間伐の予定があり確保できる/トドマツ程ではないが在庫過剰/民有林で間伐減少/年末から来春にかけての小丸太・原材料不足を懸念/木材価格一部値下げ/コロナで原木在庫も今後の見通しは不明

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
R1.12	-63	-67	-52	-	-	-
R2.3	-	-78	-78	-65	-	-
R2.6	-	-	-85	-92	-79	-
R2.9	-	-	-	-87	-84	-64

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-5	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3
当年	259,279	227,922	140,070	-	-	-
(前年)	288,663	262,626	189,831	276,138	259,279	227,922
対前年比	90%	87%	74%	-	-	-

(概況)
産業資材の不振によりカラ原木消費量は低調に推移し、新型コロナで今後も前年を下回ると回答した企業が多数を占めている。

(回答企業の主なコメント)
ラミ・梱包材・パレットの受注生産量は前年比1~5割減で推移/価格下げても受注無し/新型コロナウィルスの関係で見通し立たず/10月以降も前年ほどは動かない見込み/企業格差の拡大を懸念